

# みなみじゅうじせい



【学校教育目標】笑顔いっぱい

～やる気・やさしさ・根気強さのある みなみっ子の育成を図る～

長崎市立南長崎小学校 校長 宇土 衛

## 運動会練習真っ只中！

5月25日（日）に行われる「運動会」に向け、連日、子どもたちは熱のこもった練習を行っています。私が嬉しいのは、自分たちが出場する種目はもちろん、開会式・閉会式、ややもすれば手を抜いてしまう系の練習でさえも、集中して取り組む姿が見られることです。運動会のスローガン「笑顔で、元気いっぱい みなみっ子」を体現している子どもたちを誇らしく思います。

子どもたちには、万全の体調で本番に臨むよう話をしています。怪我なく、熱中症等にも十分配慮しながら、最高の「運動会」となるよう職員一丸となって取り組んでいきます。ご家庭でも、体調面についてぜひお声がけください。

また、本番はもとより、会場設営等、ご協力をお願いすることもあります。何とぞよろしくお願ひいたします。



迫力のソーラン



運動会係打合せ



応援練習の一場面

## 「ちょうどいい」と「さすがだね！」

以前聞いた話の中で心に残った、子どもにとっての「ちょうどいい」を紹介します。

今の世の中は、子どもにとって「～しすぎ」ということが多い。「与えすぎ」「構いすぎ」「期待しすぎ」など。

子どもにとっての「ちょうどいい」は自分のもっている力をしっかりと働かせる必要のある状態で、身の丈よりもちょっと背伸びをするくらいである。

だいたいこんな話でした。この話を聞いてなるほど！と思ったのですが、なかなかそのような環境が整っているとは言い難い現状ではないかと思えます。子どもが少ないこともあり、子どもが失敗してはいけないとレールを敷き、危ないと思ったら手を出し、時には先回りをしてしまう。例えば、子どもがなかなか食事を上手く食べられないと、食べさせてあげてしまう。その方が手間も時間もかからないからです。そういう時でも子どもとじっくり付き合い、そして少しの「チャレンジ」を見つけて、声をかけてあげることが大事なのでしょうね。

武蔵野幼稚園 原田小夜子園長は、著書の中で「子どもが小さなハードルを越えた時におすすめの声かけは『**さすがだね**』です。これは褒め言葉ではなく、子どもを認めてあげる言葉だから、何かができた時以外でも様々な場面で使えます。」とおっしゃっています。

子どもにとっての「ちょうど」状態をつくり、すかさず「**さすがだね！**」と声をかける。本校でも心がけていきます。

HPも随時更新しております。ぜひご覧ください。